

2017年



# ふそう

発行: 扶桑町議会  
 編集: 議会だより編集委員会  
 〒480-0102  
 愛知県丹羽郡扶桑町  
 大字高雄字天道330  
 TEL: 0587-93-1111  
 FAX: 0587-92-1381  
 E-mail: gikai\_sc@town.fuso.lg.jp  
 発行日: 平成29年12月1日

議会だより

第232号



柏森保育園運動会

## 9月定例会

- 平成28年度決算認定 ..... 2P・3P
- 決算の審議から ..... 4P・5P
- 補正予算等の概要 ..... 6P
- 条例等の主な内容と結果 ..... 6P
- 一般質問 ..... 7P~17P
- 意見書 ..... 18P
- 常任委員会視察報告 ..... 18P

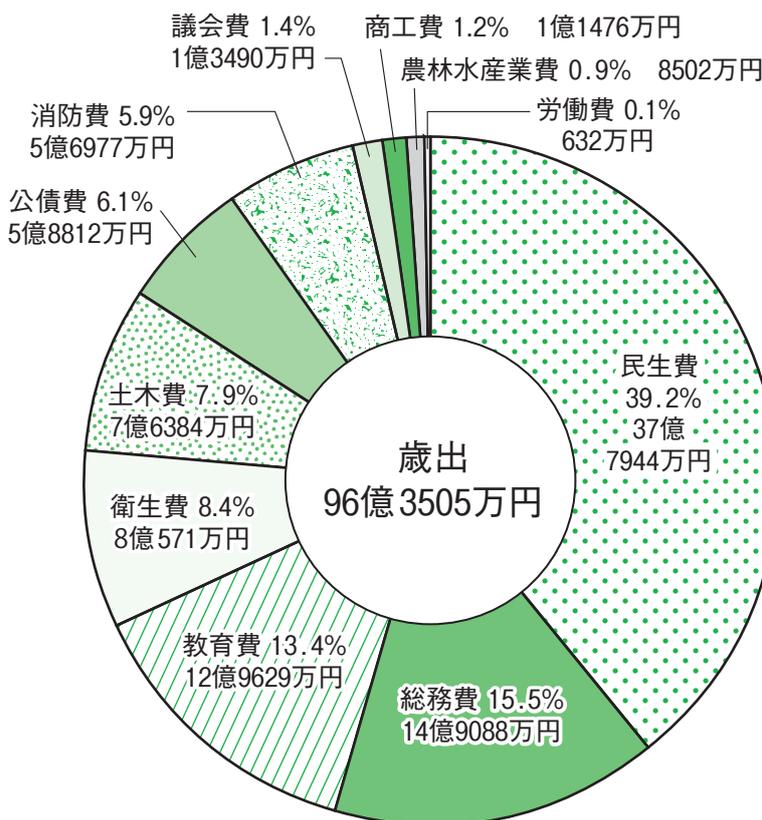
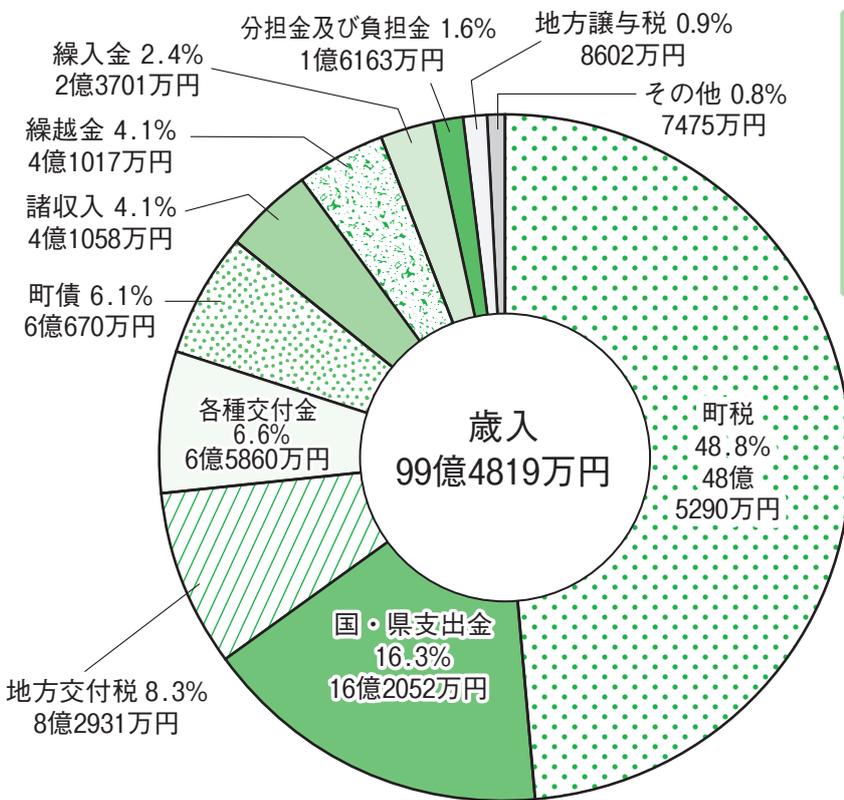
# 決算を認定

## 1492万円の黒字

### 一般会計決算状況

平成29年8月31日から9月28日まで9月定例会が開催されました。  
 今回の定例会では、平成28年度一般会計を始めとして各特別会計の決算認定案が提出され、審議の結果、全会計とも原案どおり認定しました。

(※金額の表記は、万円未満四捨五入のため実数値と差異が生じます。)



### 決算の概要

平成28年度決算総額は、前年度より歳入で6億2976万円(3.8%)増加し、171億4327万円、歳出で6億226万円(3.9%)増加し、164億4060万円となりました。

一般会計は、前年度より歳入で4億3540万円(4.6%)増加し、歳出で5億3243万円(5.8%)増加しました。普通会計での歳入の根幹をなす地方税は、前年度を5.6%上回りました。うち町民税において、法人税割が107.6%

増加したことにより9.9%の増加となりました。また、固定資産税は2.1%の増加となりました。他には、地方消費税交付金等各種交付金、繰入金等が減少した一方、国庫支出金、繰越金、地方交付金等が増加しました。歳出では、義務的経費

# 平成28年度

## 実質収支額は3億

平成28年度会計別決算状況 (万円未満四捨五入)

会計区分	歳入金額	歳出金額	差引金額	認定状況	
一般会計	99億4819万円	96億3505万円	3億1314万円	賛成13反対2	
特別会計	土地取得	211万円	0万円	211万円	賛成全員
	国民健康保険	39億4824万円	36億7173万円	2億7651万円	賛成13反対2
	公共下水道事業	6億8198円	6億7506万円	692万円	賛成全員
	介護保険	21億1226万円	20億923万円	1億303万円	賛成13反対2
	後期高齢者医療	4億5049万円	4億4954万円	95万円	賛成13反対2
普通会計	99億5030万円	96億3505万円	3億1525万円		

※普通会計とは、一般会計と土地取得特別会計の合計から相互の繰入金や繰出金等を除いた財政統計上統一的使用される会計です。

(人件費、扶助費、公債費)は、前年度を4・3%上回りました。

また、普通建設事業費の歳出総額に占める割合は7・4%で、前年度を1・5ポイント上回りました。

### 財政運営指標

次の各種の指数を算出する普通会計では、前年度より歳入で4億3572万円(4・6%)増加し、歳出で5億3244万円(5・8%)増加となりました。

### ★経常収支比率

町税などの経常一般財源収入額(臨時財政対策債を含む)のうち、人件費、扶助費、公債費などの義務的 성격の強い経常的経費に充当された割合であり、財政構造の弾力性を判断する指標となっています。この数値が低いほど行政施策を積極的に実施できます。

### ★財政力指数

標準的な行政活動に必要な一般財源の額に対する標準的な町税等の収入として見込む額の割合であり、過去3年の平均値で示されます。この数値が1に近いほど財政力が強く、1を超えた分は、余裕的な財源となります。

### ★実質収支比率

標準財政規模に対する実質収支額(歳入と歳出との差分)の割合であり、一般的に3〜5%程度が適正とされています。

### ★実質公債費比率

標準財政規模に対する地方債の元利償還金等の比率で「財政健全化の判

### ★地方債(借金)

平成28年度末現在高は、前年度から7670万円(1・1%)増加し、72億1320万円となりました。内、臨時財政対策債は、55億4925万円です。

### ★積立金(預金)

財政運営を計画的に進めるため、年度間の財源

財政状況一覧表

区分	28年度	27年度	27年度愛知県 町村平均
経常収支比率(%)	90.5	91.0	83.2
財政力指数	0.84	0.84	0.88
実質収支比率(%)	4.9	6.2	7.7
実質公債費比率(%)	1.1	1.1	3.4

※財政力指数及び実質公債費比率は26年度から28年度までの3年間の平均値

### 扶桑町の財政状況

変動に備え積み立てるもので、平成28年度末の現在高は、前年度から2億5179万円(11・7%)増加して、24億485万円となりました。

財政構造の弾力性を判断する指標として使われる経常収支比率は、前年度の91・0%と比較して0・5ポイント下回り、90・5%となりました。これは、全国町村平均(平成27年度83・7%)と比べると、6・8ポイント上回っているため、注意が必要です。

歳入総額に占める自主財源割合は、61・8%となり、平成27年度(61・8%)と同水準でした。「財政健全化の判断比率」は、特に問題なく、決算の黒字・赤字を判断する「実質収支額」は、3億1492万円の黒字となりました。

# 議から



公共施設等の総合管理計画で調査  
扶桑町役場（昭和42年建設）

## 総務建設 常任委員会

### 総務部関係

**問** 公共施設等の総合管理計画で調査した結果、構造体の結果が良好なため、目標耐用年数を70年として改修などで長寿命化するとあるが、一部雨漏り等があり、本当に良いのか。

**答** コンクリートコアを役場庁舎6ヶ所から採取し、圧縮強度試験、中性化試験とも特に問題ないと報告を受けている。

### 産業建設部関係

**問** 資源ごみ集積所の用地確保について、将来的にどう対応するのか。

**答** 現状地区で対応していただいている。用地の相談もあるが、今後も地区で対応をお願いしていきたい。

**問** 経済センサス活動調査で小規模事業者が減少

傾向だが、対策は。

**答** 具体的に、既存の制度として県融資制度の保証料と利子助成、商品券発行事業、環境にやさしい住宅改善促進事業と、今年度からは創業融資の保証料と利子助成、中小企業振興費補助をはじめた。

**問** 平成28年度の浸水防止塀設置費補助金の実績は0件だが、今年度は。

**答** 現在2件の申請がある。

**問** 道路占用について、ガス等工事後は舗装が途切れ途切れで痛むので全面補修は出来ないのか。

**答** 占用基準に基づき指



止水板を建物の入り口等に設置することで台風や集中豪雨時の侵入水を防ぐ

導しており、本復旧は掘削幅の+30cmで決められている。下水道と同時での工事などの場合は全面復旧とする場合もある。

**問** 国道41号線沿線地区土地利用構想検討業務について、今後どのように進めて行くのか。

**答** 本町において国道41号線沿線の計画的なまちづくりをしていく方向性は、はっきりしている。地元の協力なしでは事業を進めることが出来ない。現在、地元と協議を重ね、また、愛知県関係機関とも調整をしているところである。

## 反対討論

住民の暮らしをいかに守るのかという立場で編成、執行されなければならなかったにもかかわらず、住民の暮らしを顧みない予算になっていたと思う。巡回バスの検討、子どもの貧困対策、学校給食費、保育料など父母負担の軽減、放課後児童クラブの利用料減免など、ほとんど取り組んでいない。正規保育士を増員せず、臨時保育士で済ませる姿勢、新ごみ処理施設が住民の十分な理解と納得がない中、強引に推進されてきた。また、中小業者振興条例の制定が求められているが具体的な取組みが進んでいない。商品券の発行、住宅リフォーム助成制度、山名保育園0歳時保育実施のための園舎改修などは評価するが、全体として平成28年度一般会計決算は住民の願いに十分応えていないため、反対する。



「まいチャレンジ・いきいき・かがやく 私の未来」 「まいかカード」

# 決算の審

福祉文教

常任委員会

健康福祉部関係

**問** シルバー人材センターで、水耕栽培は休止となっているが状況は。

**答** シルバーと協議をしているが、方向性は決まっていない。

**問** 緊急通報システム利用対象者は虚弱な方とあるが曖昧では。

**答** リスクの高い方を対象としている。一人暮らしの80歳以上全ての方を対象とするなら、利用者負担等の検討も必要。

**問** ふそう健康マイレージの状況は。

**答** 平成28年度は「まいかカード」をお渡しできる方に、景品として計量機能付きご飯茶碗、スプレー式醤油差しなどを用意し、事業を行った。

**問** インフルエンザ予防接種について、子どもには補助がないが他市町の状況は。

**答** 自治体独自で助成しているところもあるが、町としては、国の予防接種の定期化をしているものについて実施している。



子どもたちが気軽に練習できる  
グランドピアノ開放

**問** 放課後デイサービスで事業所の評価方法としてのガイドラインは。

**答** 今後は、事業所・役場・学校との連携を含め、進めて行きたい。

**問** 図書館の新刊書が例会で検討していく。

**答** 光熱費もかかるので、今後は学校開放運営委員会で検討していく。

**問** 図書館の新刊書が例会で検討していく。

**答** 臨時的予算で、子育て関連の本、絵本など図書985冊を購入し、子育て関連コーナーを設置している。

**問** グランドピアノ開放日を増やす考えは。

**答** ホールと展示室の利用のない日に限るので、夏休みだけの開放となる。

## 賛成討論

平成28年度一般会計実質収支額は3億1,281万3千円であり、財政運営は黒字で、良好と判断できる。歳出では、民生費が37億9,111万5千円、構成比39.3%と多く、特に児童発達支援事務費などの扶助費が昨年度比8%増加した。商品券発行事業、環境にやさしい住宅改善促進事業、学校空調工事、保育園施設整備等、高齢者福祉、障害者支援等の福祉分野、商工業、農業に対する活動支援、災害対策、治水対策、交通防犯、生活道路の整備、町勢要覧「扶桑をはぐくむ」の発行など、税の配分が様々な分野になされたと理解する。財政調整基金については、不測の事態に備え適正額を設定することは肝要と考える。いずれも住民の安心安全な生活確保のために重要で適正な執行と認め賛成する。

平成29年9月定例会では、一般会計補正予算や特別会計補正予算、条例の改正、請願や陳情など28案件の審議を行いました。

## 補正予算の概要

### 一般会計補正予算

一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ3億1707万円を追加し、総額97億2407万円と なっています。主な内容は、次のとおりです。

〔賛成13人反対2人  
で可決〕

#### 歳入（万円未満切り捨て）

#### 個人町民税

5246万円

均等割、所得割とも当初見込みより増加となったため。個人町民税予算額は19億3243万円となります。

#### 法人町民税

6672万円

法人税制が当初見込みより増額となったため。法人町民税予算額は4億9570万円となります。

#### 普通交付税

1億7394万円

基準財政需要額が見込みよりも多かつたこと等による増額で、普通交付税予算額は7億1794万円となります。

#### 歳出（万円未満切り捨て）

#### 財政調整基金積立金

4340万円

前年度繰越金が確定したため、税収の変動、災害等に備えます。

#### 公共施設建設基金積立金

9000万円

議員提案による条例に基づく基金です。図書館の冷暖房設備改修等、今後の公共施設建設及び補修等に備えます。

#### 尾張北部環境組合負担金

1168万円

構成市町派遣職員人件費及び環境影響評価等調

査業務など委託料の扶桑町負担分です。  
小浜江南線沿線地区対策事業費

547万円

生活道路の交通安全対策を充実させるため生活道路交通社会実験計画を作成します。  
公共下水道事業特別会計繰出金

3899万円

地下埋設物移転負担金増等により公共下水道事業特別会計への繰出金を増額します。



学校教育施設建設基金積立金

1億1000万円

学校教育施設の建設及び補修等に備えます。

## 条例等の主な内容と結果

▼扶桑町特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の特例に関する条例

不適切な事務処理案件等諸般の事情から、条例を制定します。

〔賛成全員で可決〕

▼扶桑町個人情報保護条例の一部を改正する条例

個人情報の保護に関する法律の一部改正に伴い、条例を一部改正します。

〔賛成全員で可決〕

### 請願・陳情の結果

■定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める請願書

〔賛成全員で採択〕

■国の私学助成の拡充に関する意見書の提出を求める陳情書

〔賛成全員で採択〕

■愛知県の私学助成の拡充に関する意見書の提出を求める陳情書

〔賛成全員で採択〕

■私立高校生の父母負担を軽減し、学費の公称格差を是正するために市町村独自の授業料助成の拡充を求める陳情書

〔賛成2人反対13人で不採択〕

※採択した請願・陳情等に基つき可決した意見書は、18頁に掲載しています。

### 教育委員会委員の任命に賛成全員で同意

柴田しずさん

（斎藤宇御堂在住）

千田まち子さん

（高雄字大堀在住）

### 多機能児童館等建設特別委員会を開催

平成29年7月4日に、第1回多機能児童館等建設特別委員会を開催し、委員長・副委員長の選任を行いました。9月まで6回開催され、建設に向けての考え方について、議論し、先進地への視察を実施しました。

委員長 丹羽友樹  
副委員長 高木義道



北名古屋市  
児童センターきらり



小牧市  
大城児童館

# 岐阜基地の夜間飛行訓練を問う



桑政クラブ  
小室輝義 議員

## 答 住民の要望は東海防衛支局へ要望していく

- 問** 「夜間飛行訓練」についての文書が回覧されたが、訓練内容に変更があったのか。
- 答** 新しく転入された住民から聞かれたので、該当地域の住民へお知らせした。訓練内容に変更はない。
- 問** 年間どれほどの訓練回数があるのか、この数年の推移は。
- 答** 平成26から28年の発着回数は、民間の飛行機も含み、いずれの年もほぼ一万七千回ほどである。
- 問** 夜間飛行で発生する騒音の守るべき基準は。また、騒音の実態は。
- 答** 航空機騒音に係る生活環境基準では62デシベル以上の地域が第1種区域となっている。扶桑町北部の一部がその区域に該当する。山名小学校に騒音測定機器が設置されており、定期的に測定している。データを見る限り、数値は大きくはなっていない。
- 問** 夏期夜間飛行訓練とはいったいいつまでか。また訓練時間を少しでも早く切り上げて欲しいとの住民から要望があるがどう考えるか。
- 答** 夏期夜間飛行訓練は6月から8月までである。4市町で組織する連絡協議会で、毎年要望している。今年は扶桑町単独でも要望を行った。
- 問** 騒音対策の現状はどうか。また騒音区域や新しい転入者の住宅対策について見直しができないか。
- 答** 防音工事等は東海防衛支局が担当しており、町では把握できない。
- 問** コミュニティスクールは
- 答** コミュニティスクールへ移行する自治体が増えていると聞かすが、現状はどうか。
- 答** 県内では一宮市、名古屋市、江南市の3自治体コミュニティスクールに移行している。



- 学校数としては79校である。
- 問** 現在の学校評議員制度と比べ、コミュニティスクール制度の利点や課題をどう捉えているか。
- 答** 利点としては、地域との協働・マネジメントなど活性化し、当事者意識が高まり、地域住民の参画が促される。課題としては、担当者の負担が増える、人材確保などが懸念される。
- 問** コミュニティスクールへ移行した場合、予算的にどれほど必要か。また国や県からの補助制度はあるか。
- 答** 運営委員への謝金や、事務関係の消耗品費などの予算が要る。1校当たり23万6千円ほどは必要と考える。国からは補助対象経費の三分の一が補助される。県からの補助制度はない。
- 問** コミュニティスクールへ移行した場合、運営委員や学校への負担が増えることはないか。
- 答** 事務的業務など担当職員の負担は増える。先進市町を参考に今後研究を進めていきたい。

# 水害への平常時、緊急時の対応は



桑政クラブ  
澤田憲宏 議員

## 答 事前の備えや状況確認など迅速な対応に努める



7月14日の大雨で冠水した道路（高雄北新田地区）

**問** 近年の水害被害はどうか。

**答** 市街化とともに田畑が減少し、これまでは地下に浸透していたものが大雨が降ると短時間に用水など低い所に流れこみ内水氾濫が起こりやすい傾向がある。平成23年8月23日の水害は時間85ミリ、平成25年8月5日の水害は時間96mm、総雨量206mmの雨が降った。

**問** 今年度の水害被害はどうか。

**答** 7月14日は床上浸水8件、床下浸水52件、通行止道路冠水5箇所。8月18日は床上浸水7件、床下浸水59件、通行止道路冠水5箇所である。被害場所も齊藤東、伊勢帰、高木東、平塚地区における青木川周辺、東川南、南定松地区における巾下用排水路、北新田におけ

**問** 集中豪雨における問い合わせは。

**答** 降雨中には土のう運搬依頼、浸水被害の連絡、通行規制の依頼、水中ポンプによる排水依頼があった。また、浸水後は消毒や汲み取りの依頼、家財回収の依頼、マスクミによる被害状況の聞き取りなど7月14日は64件、8月18日は74件あった。

**問** 平常時、緊急時にできることは。

**答** 平常時では、事前の土のう配布や地域の公民館などへの確保、補助金を利用した浸水防止塀の設置などがある。緊急時は各地区からの冠水箇所や状況の連絡を受け、通行止めなどの処置など迅速に行うことができる。

**問** 水害ガイドブックの活用と見直しは。

**答** 扶桑町水害ガイド

る村田排水路、豎井堀排水路である。近隣市町に比べ、扶桑町は件数が多い。

**問** 集中豪雨における問い合わせは。

**答** 降雨中には土のう運搬依頼、浸水被害の連絡、通行規制の依頼、水中ポンプによる排水依頼があった。また、浸水後は消毒や汲み取りの依頼、家財回収の依頼、マスクミによる被害状況の聞き取りなど7月14日は64件、8月18日は74件あった。

**問** 平常時、緊急時にできることは。

**答** 平常時では、事前の土のう配布や地域の公民館などへの確保、補助金を利用した浸水防止塀の設置などがある。緊急時は各地区からの冠水箇所や状況の連絡を受け、通行止めなどの処置など迅速に行うことができる。

**問** 水害ガイドブックの活用と見直しは。

**答** 扶桑町水害ガイドブックは、平成22年に木曾川浸水想定区域の見直しにより平成23年3月に発行された。垂直避難の記載など避難情報発令に活用。昨年の12月には、想定最大規模の降雨を対象とした木曾川水系洪水浸水想定区域の公表もあり、避難準備情報から避難準備、高齢者等避難開始へと名称変更もあり、これらの見直しを反映したハザードマップの見直しが必要と考える。

**問** 災害に強い安全なまちづくりにおいて今後の課題は。

**答** 自助、共助、公助それぞれが役割を果たすこと。事あるごとにPRに努め、住民の方とともに役割について理解が深められるようにしていきたい。今年度は、防災リーダー養成講座を予定し、多くの方にご参加をお願いし、町全体で防災に取り組んでいきたい。

# 小学校プログラミング学習必修化 に向けた本町の取り組みは



桑政クラブ  
大河原光雄 議員

## 答 山名小学校で先行的に実施している



コンピュータでプログラミングに挑戦！  
(山名小学校6年生)

**問** ICT教育の目的は、情報端末を教師と生徒のコミュニケーションとして活用し、教育の質を高めることであるが、本町におけるICT教育の指導の重点は、どのようなものか。

**答** 小学校では、「情報を使いこなす力」をつけるための学習、中学校では、プログラムの作成など主体的、積極的に活用する学習を行っている。現状において、児童生徒や教職員の評価は。

**答** 児童生徒からは「わかりやすい、楽しい」という感想と、教職員からも、校務支援システムによるデータの一元管理は、負担軽減につながっていると評価を受けている。

**問** 支援を必要とする子へのICT機器の活用は、**答** 発達障がいのある児童生徒には視覚から得られる情報としての教材提示は有効である。また、本年度、扶桑東小学校に「弱視学級」が開設されタブレット端末を導入し、

教材として活用している。**問** 次期学習指導要領で、2020年までの小学校「プログラミング学習の必修化」が示された。本町の取り組みは。

**問** 本町では、来年度にICT機器のリース入替えが予定されている。今後のICT教育を総合的に考慮して、機器や予算の検討が必要と考えるが、**答** ネットワーク整備委員会及び整備部会を立ち上げ、タブレット導入等の新たな課題について検討している。

や養成の考えは。**答** 現在、全校でサポート業者のスタッフ派遣による「ICTサポート」を実施しており、町として支援員の導入や養成の計画はない。

**問** 山名小学校で「プログラミング学習」の先行実践を行っている。成果、指導上の課題を明らかにし、他校へも広げていく。**問** 本町で7月に実施された国家公務員総合職の「地方自治体実地体験」から感じたことは。**答** 地方自治体の実務を体験することで、国民全体の奉仕者としての幅広い視野を養うことを目的とした研修である。本町職員にとっても、豊富な知識、スキルを持った国家公務員と直に交流することは大変貴重で職員のスキルアップにつながった。また、今回の受け入れを通じて研修員との将来にわたる人的ネットワークを構築できたことは大きな成果と感じている。

**問** 国や県等による研修会への参加や、機器入れ替えの際には、全教職員を対象に「導入研修」を実施する。**問** ICT支援員の導入

# ゲリラ豪雨に対する今後の対策は



公明党  
佐藤智恵子 議員

## 答 青木川・各用排水路の改修等を進める

### 防災・減災対策

**問** 浸水防止堀設置補助金制度が使える対象地区は、浸水のおそれのある地域に限定されている。その条件を外し町内全域で使えるようにできないか。

**答** 近年の降り方で、今までにないところが浸水しているので、内水等、浸水しやすいところは適用していく。

**問** 床上浸水に遭われた方に災害御見舞金が支給されるが、支給条件として住家限定されている。倉庫や作業所も対象にならないか。

**答** 研究する。

**問** 今後の対策、調節池等の計画はあるか。

**答** 青木川改修事業については、引き続き県へ強く要望していく。高雄南公園の地下空間を活用した雨水貯留施設の設計を計画している。今後も冠水するような箇所の対策を調査研究していく。

### 地域防災計画の中に

**問** は、業務継続（BCP）計画重要要素の6項目が挙げられている、業務継続（BCP）計画はいつまでに策定するか。

**答** 来年度中に策定をする。

**問** 液体ミルクを備蓄できないか。

**答** 今年度の予算内で粉ミルク・液体ミルクを備蓄していく。

### 災害時対応型自販機

**問** 設置ができないか。

**答** 近隣の事例を参考に研究する。

### 障害児者支援

**問** 相談支援事業は正職1名、嘱託職員2名の3名体制で行っているが、一般的な相談から専門的な相談まで、多岐にわたって相談件数も増えている。近隣を見ても、よ



青木川改修工事の様子

り専門的な相談は委託をしているが、扶桑町でも委託は考えていないか。

**答** 専門性・就労及び療育に特化した相談内容については、特定相談支援事業所に「つなぐ」こと

のみになっていることが課題であると考えている。今後検討していく。

**問** 今年度までに地域生活支援拠点整備をしていくと示されているが、どのように考えているか。

**答** 扶桑町におけるニーズ、既存のサービスの整備状況など勘案すると、コーディネート等を活用した、各々の既存の社会資源をつなぎながら活用していく面的整備型を目指すことになる。すべてを一時期に整備することは難しいと考えるので、まずは、就労支援等専門的な相談が出来るための窓口を充実させることを検討していきたい。

# 不登校児童生徒の 学習支援の確保は



民進党  
矢嶋恵美 議員

**答** 学校以外の教育機会を確保し保障するために研究を進める



**問** 全国では、不登校児童生徒の増加傾向にあるが町内の実態と要因や背景は。

**答** 過去5年間は増加傾向にあり昨年度は、小学校12名、中学校36名計48名、要因は学校生活や家庭生活や集団への不適応等さまざまである。

**問** 学校の取り組みは。

**答** 家庭訪問や電話連絡、別室登校や夜間登校等で学習支援している。

**問** 学校以外の連携は。

**答** 適応指導教室へは現在9名通室してその他スクールソーシャルワーカーの配置で相談等きめ

細かい対応をしている。

**問** 適応指導教室の指導体制と施設整備充実は。

**答** 本年度パソコン配置し調べ学習に活用。指導体制は指導員以外に英語

数学などのボランティア教師の体制である。

**問** 法改正で「義務教育課程における学校以外の学習機会の確保」が責務

となった。施設整備も子供の1室で適切な環境といえるか。英語・数学な

どのボランティア先生どの継続性や保障が必要では

**答** できれば適切な施設が望ましい。大切な学習支援であり、貴重な意見

として受け止める。

**問** 多様で適切な教育機会の確保で、家庭にいる

学習支援や図書館活用など、どう進めるか。

**答** 30年度の情報機器更新に向けICT活用した学習支援など研究する。

図書館職員とも連携し、学校に行けない時など安心できる居場所の活用を検討する。

**問** 法制定で自治体の責務は。

**答** 施策の策定と実施する責務があり不登校児童

生徒の教育機会の確保は、将来自立できる社会人へと成長する支援であり多角的に進めていく。

**問** 特定空き家措置などに条例整備があるので

**答** 国の空き家措置法で対応できるか、今後先進

事例も参考にしてい

**問** 空き家バンクの検討は。

**答** 全国版もスタートして近隣の状況も見極め検討していく。

**問** 空き家再生促進リフォームの検討は。

**答** 現状では専門組織との連携が必要である。

**問** 国の空き家総合支援事業補助金活用は。

**答** 今後空き家対策事業

を検討していく中で活用できるものは積極的に使いたい。

**問** 今後の体制は。

**答** 庁舎内各部署と連携し体制を構築推進する。

**問** 空き家適正管理の推進

**答** 昨年度の空き家実態調査の結果は。

**答** 現地調査で空き家と判断されたのは294棟、特定空き家候補と思われるものは、30棟。活用可能な空き家件数は26棟である。

# 村田排水路工事の完了は



桑政クラブ  
和田佳活 議員

## 答 平成30年度完成（扶桑地内）

- 問** 地方公会計の整備促進は人口減少、少子高齢化が進んでいる中、限られた財源を「賢く使う」の観点から公会計の導入が必要であるが、いつからか。
- 答** 本年度10月より実施し、平成28年度決算分から統一基準による財務書類を作成し3月に公表する。
- 問** 現金主義会計の課題は。
- 答** 資産の一部である現金が増減する取引のみを記録する方法で、資産・負債等全体を把握することができない。
- 問** 地方公会計の導入の意義と機能は。
- 答** 財政状況を総合的に長期的に把握し、住民に開示することで、透明性を高め、マネジメント力を向上させる効果がある。
- 問** 財務書類4表をどのように活用するのか。
- 答** 老朽化した公共施設等の更新必要額の推計などへの活用が可能となる。
- 問** 行政評価は
- 答** 非財務数値等を体系化し、行政経営の手法に展開しようとするのが「行政評価」であり非常に重要であるが、現状は「目標設定事業計画書」を作成し、内部評価を実施している。
- 問** 行政評価の意義は。
- 答** 「PDCA」のサイクルを確立する必要があり、評価結果は行政活動の成果を向上させ住民サービスに繋がるものと考ええる。
- 問** 行政評価の構築は。
- 答** 総合計画の基本計画に位置付けた施策ごとの単位で、住民にわかりやすい様式にてホームページで公表する予定である。
- 問** 村田排水路工事は
- 答** 今後の工事概要と雨量の設定は。
- 問** 最下流部（扶桑地内）は、本年度詳細設計工事は、
- 答** 完成目標は平成30年度である。雨量設定は上流部と同じく5年に一度の降雨「1時間内52mm」を想定し、施設計画をしている。
- 問** 工事完了時、浸水被害は解消できるのか。
- 答** 併用設置する貯留槽「780t」も整備され、又直径1mの管より2.1m×1.5mのボックスに扶桑地内が改修されれば機能を十分に発揮し解消につながると思われる。
- 問** 地域の都市開発により道路で水を受ける構造に変化しているがどう考えるか。
- 答** 村田機械からの雨水はボックスに落ちる構造となつている。
- 問** 水の流れは予想外のことが起こる。観察の強化を要望する。工事完了時までの臨時対策は。
- 答** 完了時までは検討していない。貯留槽が本年度完成予定であり浸水被害が少しでも軽減されることを期待している。完成後浸水被害の状況を確認し犬山市とも協議の上臨時対策の必要性や対策方法を検討する。



高雄橋爪線沿いの村田排水路工事



桑政クラブ  
千田勝文 議員

## 空き家等の状況調査の取り組みは

**答** 法務・不動産の専門家、地域住民の協力を得て進めたい

**問** 空き家の件数及び構成は。

**答** 空き家は294棟で住宅が277棟、店舗併用住宅が6棟、店舗が3棟、事務所が1棟、工場や倉庫が7棟である。

**問** 特定空き家の状況は。

**答** 現状では、特定空き家は無い。

**問** 所有者のアンケート結果は。

**答** 所有者が判明した265棟について実施、その内150棟の回答があり、「全く利用していない」が36棟あった。

住まなくなった理由としては、死亡・施設入所・入院等が主なもの。維持管理は、86棟が何らかの方法で行っているとの回答があった。

**問** ごみ・雑草及び樹木等の管理実態・状況は。

**答** ごみの散乱や山積みで放置されているものは5棟、雑草や樹木等の繁茂しているものは5棟である。アンケート調査に

よれば、所有者の6割弱の方が、何らかの方法で維持管理に努めている現状である。

従来から、苦情等があれば所有者を調べ文書にて処理依頼している。

**問** 行政代執行法との係わりは。

**答** 特定空き家と認定され、手続きを踏んだのち代執行法により対処することができるとのこと。

**問** 空き家等対策協議会の設置は。

**答** 空き家等対策協議会は、空き家等対策計画策定に当たっては、必要不可欠な組織である。協議会設置するには、法例やガイドラインを基として先進地事例や民間団体等とどのような協力が頂けるか慎重に検討していきたい。

**問** 条例制定の考え及び内容は。

**答** 条例の整備については、今のところ空き家の処理については法律の中

で対応できており、今後、先進地の事例や動向を参考にしながら研究していきたいと考えている。



# 防犯カメラの今後の設置は



桑政クラブ  
兼松伸行 議員

**答** 地域の防犯力を高めるため  
設置費補助金をPRし、設置を促す



地域の防犯に活躍する防犯カメラ  
(柏森発展会による設置)

**問** 町内の防犯カメラの現状と今後の設置は。  
**答** 現在防犯カメラは名古屋鉄道3駅に各2ヶ所、高木吉山交差点と青木川中島調整池に各1ヶ所、木曾川緑地を始め4公園に6ヶ所、柏森発展会が町道に防犯カメラを6ヶ所、設置されている。  
「扶桑町防犯カメラ設置費補助金交付要綱」の活用とPRをして地域の防犯力を高め広めるために設置を促していきたい。また犯罪抑止のため設置

が必要な場所が生じた場合には新規設置の検討をしていく。

**扶桑文化会館の音響反射板は**  
**問** 文化会館における昨年度音楽事業の現状と、今後の音響反射板の必要性は。  
**答** 文化会館における全64事業のうち音楽関係は27事業であり、舞台にパネル板を設置したりマイク等を活用して利用者の



第33回町民音楽祭の様子

公演内容が最大に発揮出来るよう努力をしている。マイクを使用しない生の演奏を客席から聴いたことがないため、今後は、そのような公演会の現場に向き研究していきたい。

# 地域コミュニティ活動への 促進課題は



桑政クラブ  
千田利明 議員

**答** 人材の育成が最も重要な課題と考える



北定松シルバーサロン

**地域コミュニティ活動の現状と今後は**

**問** 地域にとつて欠かせないコミュニティ活動は、地区自治会同様慣れ親しんだものであるが、昨今では活動や存続面で各種の問題が出て来ている。郷土愛と協働愛で築く自治の町を基本理念とする扶桑町の、協働に携わる住民の現状と今後をどのようにとらえているか。

**答** 本町の平成29年8月末の住民基本台帳の人口

は、3万4648人で、10年後には3万4500人となり、平成27年の国勢調査での就業者数において1万6390人で、今後10年間は横ばいに推移し、20年後には500人程減少するものと予測している。

**問** 少子高齢化や、連帯感の希薄化傾向にある地域環境の中、活発なコミュニティ活動を継続し、促進していく上での課題をどのように考えるか。

**答** 本町の地域コミュニティ協議会組織は24地区であるが、一部の少世帯自治区では協議会としての活動がない地域もある。将来的に、地域コミュニティの指導者の育成をどのように考えるのか、またそれぞれの地域のマイナスポイントを強化補完し、住民協働を一段と推進させるために、複数の地域コミュニティを学区単位に統合させることも必要と思うがどうか。

**答** 地域コミュニティは一定の地域を基盤とした住民組織、人と人との繋がりであり、そこに暮らす地域住民が構成員となり、地域づくり活動や課題の解決など、自主的に展開する地縁型組織であるが、人材面や資金面での資源不足が挙げられ、防災や高齢者福祉の分野におけるきめ細やかな情報把握が難しくなつて来ているものと認識している。

**問** 本町の地域コミュニティ協議会組織は24地区であるが、一部の少世帯自治区では協議会としての活動がない地域もある。将来的に、地域コミュニティの指導者の育成をどのように考えるのか、またそれぞれの地域のマイナスポイントを強化補完し、住民協働を一段と推進させるために、複数の地域コミュニティを学区単位に統合させることも必要と思うがどうか。

**答** 地域コミュニティの役割が非常に大きいと認識し、人材の育成は最も重要な課題と考える。将来的には地域コミュニティ組織の在り方も踏まえ、再編も課題となつて来ると思うが、議論には至つておらず、今後地域の意見も聞きながら進めていきたい。

**答** 住み良い地域づくりには地域コミュニティの役割が非常に大きいと認識し、人材の育成は最も重要な課題と考える。

**問** 地域コミュニティの諸問題への対応策は、健康で元気な高齢者を活用した地域づくりにある。地域宅老事業に対する補助と育成への考えは。

**答** 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要な住民の支え合いである「互助」活動の強化につながり、大変意義のあるものであり、支援のあり方については今後も研究していきたい。

# 児童館はどのような施設か



日本共産党  
高木義道 議員

**答** 子どもを健やかに育成する場である

**問** 扶桑町にもやっと児童館ができる。住民の皆さんが待ちわびていた。児童館はどのような施設か。

**答** 18歳未満のすべての子どもを対象とし、遊び及び生活の援助と地域における子育て支援を行い、子どもを心身ともに健やかに育成することを目的としている。

**問** 他自治体・先進地の事例を確認して、後発ゆえに扶桑町にはいいものができたと評価されるよ



うな児童館であるべきだ。他市町の施設の状況は。

**答** 犬山市の楽田児童センター、小牧市の味噌岡児童館、各務原市の子ども館と併設されている東保健センターを視察。児童館と放課後児童クラブの併設、就学前・後の児童のスペースの区分、高校生も利用できるような学習室、音楽スタジオ、保健センターの職員の育児相談など、各施設とも様々な特徴を有している。

**巡回バス** 高齢者にやさしいまちづくりの一環としての巡回バスの位置づけは。

**答** 高齢化の進展に伴い、自動車の運転に不安を感じていることは認識している。高齢者の日常生活における交通手段の確保は、やさしいまちづくりの一環としても重要性が高いと認識している。巡回バスについては住民全体の交通手段を確保するための地域公共交通として検討していくものと整理している。現在はまだ方向性が決まっていない。

**道徳の教科化**

**問** 小学校での道徳の教科化について、国・文科省の教材の使用で子どもたちの健全な成長が保障されるか。

**答** 道徳は昭和30年から始まっている。小学校でも授業は行っているが、通知表の中に道徳の科目はなかったが、これから

は評価の対象になる。教科書が文科省から配布され、授業を進める。評価は文章で行う。本質的なところは変わっていない。

**岐阜基地の航空機騒音**

**問** 岐阜基地の航空機騒音が問題になっっている。1日当たりの飛行数は。

**答** 1日の飛行数は、平成28年度は53回という回答を岐阜基地から頂いている。

**問** 岐阜基地の夜間飛行訓練のお知らせでは、午後5時30分頃から午後8時頃を予定している、となっているが、どうか。

**答** 岐阜基地に確認し、また今回一部の地域に回覧をしているが、夏期は午後9時まで、その他の期間は午後8時までとお知らせしている。

# 国保会計への一般会計からの繰入の堅持を



日本共産党  
小林 明 議員

## 答 繰入は減額の方角で検討

**国保税の課税方式は**

**問** 来年4月から国民健康保険が広域化される。愛知県が示している国保税標準税率の課税方式は、資産割をなくして3方式（所得割・均等割・平等割）である。問題点も出てくるが、課税方式はどうするのか。

**答** 国保運営協議会では3方式で試算すると報告しているが、課税方式を変えることの影響も考慮し、慎重に結論を出していきたい。

**国と一緒にって住民を苦しめる姿勢**

**問** 高い国保税の引き上げを抑制したり、引き下げのために、一般会計からの繰入を堅持すべきと考えるが。

**答** 一般会計からの繰入は減額の方角で慎重に検討する。

**問** 国と一緒にって、住民を苦しめるような姿勢だ。町独自の減免制度

は、維持すべきだが。

**答** 今後、国保税率は県内で平準化されると予測している。適正な減免制度を検討する。

**水害対策・青木川改修、貯留施設設置を**

**問** 7月、8月に短時間に記録的な豪雨があり、床上、床下浸水などの被害が出た。水害を未然に防ぐために、青木川改修と低地対策として、雨水貯留施設の設置が必要と考えるが。

**答** 青木川の改修は県に引き続き要望して行く。低地の浸水対策として、浸水状況を確認し、道路とか公共施設の地下に貯留施設など研究していく。

**子育て支援・父母負担の軽減を**

**問** 多くの市町村で学校給食費の無償化、保育料の無料化などが進められている。学校給食の無償化あるいは、補助の考え

はないのか。保育料の引き下げ、軽減措置の考えは。

**答** 学校給食費は、学校給食法に基づき保護者負担にしている。今後も県内の状況を調査し、研究していく。保育料は、現行の制度で負担を軽減している。

**問** 放課後児童クラブの利用料の減免制度をつくるべきだが。

**答** 利用料の軽減は、慎重に判断しなければならぬと考えている。

**小規模企業振興条例の制定を**

**問** 小規模企業振興条例は、近隣の状況を把握しながら、検討すると言ってきたが、どのような検討をされたのか。条例制定の意思はあるのか。

**答** 具体的な検討はしていないが、県内の制定状況、近隣の動きなど今後情報収集に務める。

振興条例を否定するものではないが、条例制定は県内の状況、近隣の状況も勘案して、慎重に判断していきたい。



1日約3,300食の学校給食を実施する学校給食共同調理場

# 9月議会で可決した意見書

- 定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める意見書  
〈提出先〉 内閣総理大臣 財務大臣 総務大臣 文部科学大臣 内閣官房長官
- 国の私学助成の増額と拡充に関する意見書  
〈提出先〉 内閣総理大臣 財務大臣 総務大臣 文部科学大臣
- 愛知県の私学助成の増額と拡充に関する意見書  
〈提出先〉 愛知県知事
- 道路整備予算の確保及び道路整備に係る補助率等の高上げ措置の継続を求める意見書  
〈提出先〉 衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 財務大臣 国土交通大臣
- 小中学校におけるプログラミング必修化に対して支援を求める意見書  
〈提出先〉 内閣総理大臣 文部科学大臣 経済産業大臣
- 北朝鮮の核実験を厳しく糾弾・抗議し、問題解決のために世界と日本の安全確保を求める意見書  
〈提出先〉 衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣

★ 意見書の全文は、扶桑町ホームページ(扶桑町議会)に掲載しています。★

## 視察報告

### 福祉文教常任委員会

委員長 副委員長 委員

大河原光雄・和田佳活・近藤泰樹・高木義道・矢嶋恵美・近藤五四生・佐藤智恵子・兼松伸行

7月19日に愛媛県西条市の「小中学校ICT教育推進事業について」、20日に愛媛県新居浜市の「障がいや発達課題のある子どもへの一貫した支援体制について」の調査研究を行いました。

#### 学力向上、教師の負担軽減を図るICT活用(愛媛県西条市役所)



電子黒板に映し出される鮮明な画像や映像、子ども達の意見を電子黒板で表示し、活発な意見交換の実施など、子ども達の興味や好奇心をかき立てる授業、学校間・教育委員会の情報共有やテレワークの利用も可能な校務支援システムの活用による教師の多忙化の解消、ICTを活用することで、子どもの学力の向上と教師が子ども達と向き合う時間の創出をしている。文部科学省も第2期教育振興計画において、教育の情報化を強く推進しており、必須化されるプログラミングへの対応など教育へのICT活用の必要性を感じた。

#### ライフステージに応じた支援体制(愛媛県新居浜市役所)

発達課題のある児童による学級崩壊がきっかけとなり、市長のトップダウンで、障がいや発達課題のある子への一貫した支援体制づくりが始まった。早期発見のためのM-C-H-A-Tの導入、個別支援計画の作成、同一施設での支援を可能とする子ども発達支援センターの設置など、保育園から学校、就職まで子どものライフステージに応じた支援体制を整えている。子どもの成長課程において、学校と関わる期間が一番長いことから、教育委員会に発達支援課を設置し、支援体制の拠点とする工夫には見習うべき点が多い。



## お知らせ

あなたも議会を  
傍聴してみませんか  
12月定例会は →



詳しくは議会事務局まで  
TEL 93-1111 内線322

#### 12月定例会の日程(予定)

12月1日(金)	開会・提案説明
12月7日(木)	一般質問
12月8日(金)	一般質問
12月11日(月)	議案質疑
12月12日(火)	福祉文教常任委員会
12月13日(水)	総務建設常任委員会
12月20日(水)	委員長報告・討論・採決・閉会

#### 「会議録検索システム」 インターネット配信

扶桑町役場ホームページで議会会議録をインターネット配信していますので、ご利用ください。

扶桑町役場  
ホームページ

↓

扶桑町議会

↓

扶桑町議会  
会議録検索システム



● 9月定例会分は、  
12月1日に更新を予定しています。